

## 平成26年度 F3C ラジオコントロールヘリコプター日本選手権確認事項

### 日程およびスケジュール

10月3日(金)	1ラウンド スケジュールP 42名 (目慣らし飛行あり)
4日(土)	2ラウンド スケジュールP 42名 1, 2ラウンド(予選ラウンド)のベストスコア上位15名が決勝に出場する。 16位以下は予選ラウンドの成績で順位を決定する。
5日(日)	決勝1R、2RスケジュールF 15名 目慣らし飛行は予選16位の選手がおこなう。(1Rのみ)

競技は原則として予選1, 2ラウンドと決勝1, 2ラウンドをおこなうが、予選会期2日の内、天候の都合で1日しか予選を実施出来なかった時は予選は1ラウンドのみとする。予選成績1位~15位までの選手は決勝飛行をおこなう。予選ベストスコアと決勝1, 2Rをカウントした3個のスコアからベスト2個のラウンドのスコアを合計して順位を決定する。16位以下は予選の成績で順位が確定する。

### 競技規則

FAI F3C2014年規定(2014. 3. 1改訂版)スケジュールPおよびF、平成26年度審査員講習会統一見解事項を含む。  
演技時間の計測はP、Fともスタートサークルを出発した時から計測する。(スタートサークルでの時間が5分以内の場合)  
スタートサークルで5分が経過した時点で演技時間の計測を開始する。  
審査員の都合でスタートサークルからの出発が遅れる場合は計時を一時中断する。

#### 演技時間:スケジュールP 9分、スケジュールF 9分。

スタートサークル準備時間(エンジンスタート)の合図は前の選手が、P3またはF3の演技の終了後、または前の選手がスタートサークルを出発して6分後、どちらか早いほうで合図をする。

### 機体検査

ジャイロについて:自動位置(緯度経度)固定装置ならびに高度保持装置は外部からの指示を利用するしないに関わらず使用を禁止する。  
選手全員を対象に1ラウンドフライト終了後に機体検査を本部でおこなう。2ラウンド目のフライトに1ラウンドと違う機体を使用した選手は、自発的に本部で必ず機体検査を受けて下さい。(搭載ジャイロの確認をします。)

### 採点および計算

採点は5名の審査員による一演技毎の上下カットを行う。  
成績は2014年規定の1000分率で計算する。  
飛行禁止空域侵犯をした場合はそのラウンドは0点となる。  
タイムオーバーがあった場合は該当演技を含め以後は0点となる。

### 同点の処理

1位と2位、6位と7位が同点であったときは次のように処理をする。  
1. 複数のラウンドが終了している場合は捨てたラウンドの1000分率計算成績を加算する。  
2. それでも同点が解消されないときは素点数の高い方を上位とする。  
3. それでも、同点が解消されない場合はフライオフを直ちにおこなう。

### 選手権の成立

天候の不良で全ラウンドを消化出来なかった場合は、完全に1つのラウンドが終了していたならば、1つのラウンドだけで選手権は成立する。

### 中断について

1ラウンド目に天候不良のため競技が中断した場合、待機時間の合計が1時間を超え日の入り時刻17時30分までに全選手の飛行が完了しないと予測される場合は1ラウンドの中断としてラウンドの不成立とはしない。  
この場合2日目のフライト順は抽選順ではなく、1ラウンドの中断後の選手からとする。  
2日目の天候が良好の場合は中断後の選手から全選手のフライトが完了出来た時は1ラウンド中断までの成績を破棄して1ラウンドを不成立とする。

例:1番の選手から開始して15番の選手のフライト後に中断して続行が出来なく翌日に持ち越した時、16番の選手からフライトを開始し、続けて15番の選手まで42名全員がフライトをする。

2日目の天候の条件が前日と変わらないときは様子を見ながら中断後の残りの選手のフライトを行い1ラウンドを成立させる。

例:中断後の16番の選手から開始して42番の選手までフライトをして1ラウンドの成立とする。

最終日は中断時間の合計が1時間を超えた場合はそのラウンドは中止とする。  
雨天の場合:風が無く小雨の場合は競技を続行する(防水対策は選手個人の責任でおこなう)。飛行に際しトラブルが発生しても本部は責任を負いません。傘が必要な降雨の場合は競技を中断する。

### 2015年F3C世界選手権について。(オーストリアが立候補)

会期予定:2015年(平成27年)7月2日~7月12日にオーストリア・ケルンテン州クロパイナーゼーで開催予定。

RCヘリコプター委員会としては原則として諸般の事情を考慮して実技選抜会は行わない予定。  
平成26年度日本選手権が終了した後に平成26年度日本選手権成績を主に平成25年度日本選手権成績を参考にしてRCヘリコプター委員会で検討してF3C日本代表選手3名を選出する。(F3Nは参加しない)  
状況によっては実技選抜会の開催もあり得る。

#### 安全について

平均風速8m/secが計測された場合および瞬間風速が12mを超えたときは競技を一時中断する。  
その後15分～30分ごとに再計測して状況を見る。  
風速8m以下でも雨で審査が出来ない場合は中断する。  
小雨で風が無い場合は競技を進行するので送信機の防水対策は選手個人ですること。

#### 遵守事項 (選手全員が公平に同一条件で競技に参加するための取り決めです)

スタートサークルでの飛行(高度2m、選手と機体の向きは離陸時の姿勢から180°を超えてはならない。)  
違反があったときはそのラウンドは終了となる。  
スタートサークルからヘリパッドまでの飛行は選手、機体とも15～20Rの進入経路に沿って高度2mで飛行する。  
選手と機体の向きは180°以内で飛行すること。  
助手が機体を手持ちでヘリパッドまで運ぶことが出来る。

スタートサークルでの待機(前の選手が最後から3番目の演技が終了したら、機体を降ろし、エンジン回転をアイドリングに下げる。電動機も同じく着陸待機のこと)

#### 騒音ペナルティについて

次の条件に一つでも該当した選手はペナルティ(減点)の対象となる  
1. スタートサークル内での測定値が85dBA以上である。87dBAを超えてはならない。  
2. 審査員の5分の3が飛行騒音を大きいと判断した場合。  
※減点は素点数の3%をカットする。

#### 燃料

JMA認定シール(F3C)貼付の低オイルまたはエコロジー燃料を使用しなければならない。  
全ラウンドとも燃料タンクは空の状態<sup>で</sup>給油ピットで役員立ち会いのうえ給油する。決勝ラウンドは給油の際、サンプルの提供を要求することがある。

#### 電動機

外部電源の使用は禁止する。電圧は51V以下で選手が競技役員に電池電圧の確認をして貰う。  
電池電源の接続はスタートサークルに入ってから役員の計時開始の指示で接続すること。フライト終了後の電池電源の取り外しはセフティライン(ジャッジライン)を出る前に行う。  
障害でコントロール不能になった場合に電源が切れるようにフェイルセーフを設定する。  
ブレードを外した状態での設定確認テストを抜き取りでおこなう場合、選手は協力しなければならない。  
電動機を使用する選手は各自、有効な消火器具をスタートサークルに持参すること。(役員確認)  
上記は安全のためにFAI・CIAM・F3C委員会が2011年6月に制定されました。  
発火事故が起きたときは消火に要した費用は当該選手が負担すること。

#### 保険

模型飛行士登録証を受け付け時に提示して有効期間の確認を受けること。  
人的、物的事故があったときは、その選手個人の責任で処理をすること。

#### 競技フィールド

会期中、各ラウンド開始前の飛行を禁止する。違反者はそのラウンドには出場出来ない。  
競技終了後は飛行場閉鎖時間まで、選手間の管理による練習飛行は出来る。  
練習飛行は全選手が公平に練習が出来るように配慮してください。

#### その他

フリーパス:決められたフリーパス以外にフリーパスがあった場合は以後の演技科目は0となる。  
全ての演技は風向きが指定されている。演技プログラムの途中での演技方向の変更は出来ない。  
明らかに風向きと反対方向で演技をおこなった場合は0となる。  
演技科目の順序を間違えた場合、間違えた演技科目は0となる。  
スタートコール前であれば演技科目名の訂正は認める。  
NO1,NO.2の演技着陸後、演技名のコール前であれば機体の位置をセンターに移動することができる。  
但し機体の向きを180°変えてはならない。変えた場合は0とする。  
コール:採点は開始コールから終了コールまでを採点する。全審査員に明瞭にわかるようにコールをすること。  
全審査員がコール(スタートおよびフィニッシュ)を確認できないときは0とする。  
オートローテーション着陸時に転倒および破損した場合は0点とする。  
ただしオートローテーションについては模型がセンターラインを超える前にすでにオートローテーション状態でセンターラインを超える前にスタートコールをしなければならない。採点はセンターラインから直陸終了コールまでを採点する。

2014年規定適用後の地区予選を願みて下記の事項の採点は特に重視する。

- \* ストールターン(頂点で停止後)とテールターン(頂点で対称)の違い。
  - \* フリップ:フリップは半径を持たない模型横軸の回転である。停止フリップ(ステーションナリーフリップ)と移動しながらのフリップ(トラベリングフリップ)がある。またフリップの方向は演技によって定義づけられている。
- キャンドル・ウイズ・ディセンディングフリップは後進降下しながらの1/2プールド・フリップである。  
UXはブルアップ270°停止フリップ、オーバルはブルダウン360°移動フリップであり横軸の軌跡に高度変

化があってはならない。

- \* ホバリング演技 P1, P2, F1, F2の最低ホバリング高度は2mでありアイレベルの表現は無くなっている。低い高度のホバリングは減点対象となる。
- \* 上空飛行の最低高度は20mに定められているが高すぎる、遠すぎる飛行は減点される。上空演技の中心はセンターラインであり演技図形はセンターラインに対し左右対称である。

その他、ここで触れていない事項については2014年競技規定(3月1日改訂版)および統一見解の解釈のとおりとする。

競技場(駐車スペースを含む)でのアルコール飲料の飲用は禁止です。選手、役員、関係者の方は遵守してください。

#### 日本選手権抗議手続き規定

◆不服の申し立て: 選手は不服の申し立てを競技委員長に口答により行うことができる。

◆異議の申し立て: この件に関する競技委員長の裁定に不満の場合、選手は直ちに異議の申し立てを書面により保証金を添えて競技委員長を経由して陪審員に提出することができる。保証金は3万円とし、申し立てが承認された場合に限り返却する。

#### ◆申し立ての提出期限

- A) 競技開始前: 参加の有効性、競技者の資格、競技規則、飛行場、模型の検査、競技場、審査その他の競技役員などについての申し立ては競技開始の少なくとも1時間前までに行わなければならない。
- B) 競技中: 審査員その他の競技役員による決定事項についての申し立て、あるいは他の競技者が競技中に犯した違反行為または不法行為についての申し立ては直ちに行わなければならない。
- C) 成績発表後: 成績に関する申し立ては主催者が成績を発表した時から15日以内に行わなければならない。

#### 飛行受付、送信機の保管

飛行受付は8時00分から8時15分までに完了すること。72MHzおよび40MHzの選手は送信機を預けること。2.4GHzは保管しない。

休憩: 6名ごとに5分間の休憩をとる。ただし選手は3分前からスタートサークルで待機しスタートの準備をする。

#### スタート順の抽選

1ラウンド目の1番目にフライトする選手を抽選する。

フライトオーダー順に飛行し、2ラウンド目はプラス21番目の選手からフライトする。

1日目が中断で全員が飛行できなかった場合は前項の中断についてのとおりおこなう。

決勝ラウンドの飛行順については出場15名が決定した時点で公開抽選を行う。